

みどりひと



みどりの新聞 平成18年3月20日 発行

No.134

川沿いの風景…

今昔

其の四

神田川今昔

神田川は、井の頭弁天池に始まり柳橋で隅田川に合流した後、東京湾に注ぎます。

全長24.6キロメートル、そのうち8キロメートル弱が杉並区の南区境に沿うように流れています。徳川家康の江戸入城に伴って増加した人々の生活用水として、赤坂溜池と神田山の下を流れる川の水を市中に引いたのですが、更なる需要にせまられ、水源を井の頭池にし、途中善福寺川と妙正寺川を合流させた神田上水を造ることになりました。上水工事としては玉川上水に先んじ、日本水道事業の最初



神田川のサクラ

のもので、完成は徳川家光の時代といふことです。後にできた玉川上水とともに江戸の二大上水として明治32年まで使われていました。

隅田川に合流するまでの途中、小石川の水戸藩邸、小石川後楽園を通し、現在の水道橋付近に大樋を架けて日本橋方面へ給水していました。後楽園に引き込まれた水は、池や滝などとなって見るものを楽しませていました。

さて現在の神田川は、久我山稻荷神社より少し川上の「みすぎ橋」から杉並区に入り、環七の方南橋を少しくだつた「たつみ橋」で一度杉並区に別れをつげます。川幅のあまり広くない上流では、対岸の桜の枝先に触れられそうな風情や川沿いのポケットパークでの一休みが楽しめます。川の流域にはしばしば古代の遺跡が見られますが、神田川でも縄文遺跡、弥生遺跡等が発掘されており、川沿いにある塚山公園には縄文時代の竪穴式住居の復元模型や遺跡の展示もあり、古代が突然とても身近になったりします。下流になるほど、川底、水深が深くなり、水の汚れが目立ってきます。川に沿って上流から歩いてみると川岸の景観が変化して行くのがはつきりします。皆様はどんな感想をもたれるでしょうか。



竪穴式住居(塚山公園)

高円寺東落ち葉だめ

高円寺東公園のけやきの葉はタバコのフィルターやアメの小袋と分けられてこの落ち葉だめに入ります。こどもたちの歓声とともに靴底の下にカサコトントンとふみしめられます。落ち葉だめでできた腐葉土は高円寺南商店街通りのサルスベリの根元に届けられます。

その他

- ・落ち葉だめゾーンへのコクサギ（カラスアゲハの食草）の植栽を提案
 - ・桃園川緑道植え込み地への植栽と施肥の提案（予定）
- みどりのボランティア杉並の活動の一拠点です。

【きりかえし日】 毎月第一すいようび 13:00~15:00



特集!

みどりのボランティア杉並【後編】

133号に引き続き、みどりのボランティア杉並の特集です。



△神田川遊歩道沿いのビオトープです（久我山～三鷹台の間）池に放されたアメリカザリガニなどがメダカやヤゴ、水草を食べています。ペットは逃がさないようにしましょう。手入れをしている時にも気軽に声をかけて下さい



植木応援団

フジの花を咲かせましょう!

植木応援団では活動の1つとして区内の咲かないフジを咲かせる取り組みをしています。

フジを育てることが得意なS氏の指導のもと上高井戸保育園のフジを手入れたところ、なんと翌年には藤棚に紫色の房が見られ、皆で感激しました。現在手入れをしているところが数ヶ所あり、開花期の4月末頃が楽しみです。

その他、植木応援団では、庭木の剪定の講習会、区立公園内の落葉を集めての堆肥づくり、野草園造りなど、区内の緑を少しでも豊かにしたいと願い頑張っています。



みどりとひと編集グループ

「杉並の川を本年度は継続特集にしては…」、「緑の歳時記で取り上げた植物は、写真よりもイラストの方がより強い印象を受けそう…」。

さまざまな意見が飛び交う本紙の編集会議です。各頁に記事を割り振り、原稿を書く担当、写真班を決め、それから悪戦苦闘して記事を書き上げ、再度全員で、読みにくそうな表現などを修正し、印刷所でも指導を受けて、年度中に概ね4回発行します。季節感



を出せる写真は、前年の同時期頃撮った写真から選んでしまう裏わざをすることもあります。発刊出来た充足感以上に、読者の皆様からのお便りが、もちろん嬉しいご指摘も含めて、私達には一番の喜びとなります。

「みどりのボランティア杉並」新規会員募集!!

□「みどりのボランティア杉並」はこんな制度です

- ・生活者の視点から地域の「みどり」を守り、育てるボランティアです。
- ・活動内容は、公園・保育園などの樹木剪定や花壇づくり、腐葉土づくり、みどりの新聞の編集などです。
- ・区から以下のような支援があります。ボランティア保険の加入／資材等の提供／活動に関するアドバイス・相談／講座の開催 など

□登録期間

平成18年4月～平成20年3月まで。登録は更新できます。

□登録方法

都市整備部公園緑地課*みどりの計画係までご連絡下さい。申し込み用紙をお送りします。

○電話：03-3312-2111(区代表電話)

○FAX：03-5307-0689

*平成18年4月から、課名が「みどり公園課」になります。

緑の歳時記

クロマツ<黒松>マツ科 別名オマツ

分布 本州、四国、九州、朝鮮半島南部

海岸地方に広く自生し、高さは40メートルにもなります。潮風に強いので防風、防潮林としてよく植えられています。樹皮は灰黒色で若木では浅く裂け、老木になると深い亀甲状に裂け目ができ、不規則な鱗片となつてはがれ落ちます。葉は2個ずつつき、5～16センチの針状でかたく、さわるとチクツと痛いです。4～5月頃、雄花は今年のびた枝の下に多数群れてつき、雌花は先端に1～3個つきます。用途は観賞用(庭木、盆栽など)、建材(床、柱など)、楽器材、パルプなどです。

クロマツは、妙正寺公園や区内の寺院、アカマツは、柏の宮公園、井草森公園で見ることができます。

和名の由来

1. 久しく齢を保つところから「たもつ」が転じて
2. 行末を待つ意から
3. 万年の齢をもち常磐(ときわ)色を保つところから
4. 神を待つ意



杉並でよく見る松

みどり探訪

浴風園の様々なみどり

園内には様々なみどりのスポットがあります。中庭のバラ園や、園内に水音を響かせる礼拝堂前の池、おもしろいわれを持ったクヌギの巨木やクスノキ、居住者やボランティアが活動する花壇、そして、雑木林など…長いみどりの歴史を想いながら、園内の緑地めぐりを楽しむ事ができます。



△本館南側。大中小のシュロの木が並びます。



◁ 多種の植栽で自然に造られた深みのある生垣は、四季折々に様々な野鳥が訪れ、中を通ります。



△ 正面入り口。設立当時からあるクヌギの巨木

園芸ワンポイント

[指導]
澤地 家治
先生

ヒメスイレンの作り方

スイレンには、耐寒性スイレンと熱帯性スイレンがあります。

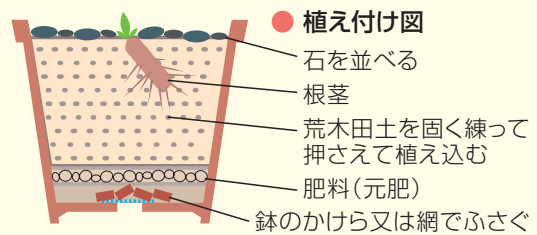
小型品種のヒメスイレン（耐寒性）なら園芸用の鉢などで十分栽培できます。また、根茎を植え込む時期も3月～4月が適期です。

● 用意するもの

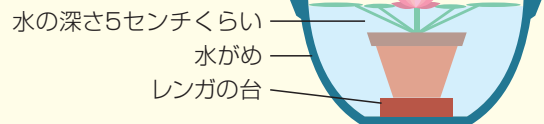
- ・鉢：5号～6号くらいの素焼きの園芸鉢
- ・用土：粘質土（荒木田土、または田んぼの土）
- ・元肥：煮ぼし、かつおぶしのかけら、油かす（固形）など、どれか一握りくらい
- ・根茎：なるべく末端に芽のあるもの
- ・水鉢：かめ、又は大きめのポリ容器

● 植え付け

鉢穴を鉢のかけらか、網で防ぎ、少し土を入れた上に元肥を置く。さらに土を入れて中央を高めにし、根茎を植え込む。芽先をやや上向きに、根を広げて浅植えにする。その際、根茎と土が十分に密着するように手で固く押さえる。土の表面を平らにし、小石を並べて、用意したかめなどの水に静かに沈める。



● 水がめの姿図



● 管理

なるべく日当たりの良い場所で、水深は鉢の縁より5cm くらいほどの高さに保ち、時々補給する。ポーフラ発生防止のため、メダカなど小魚を入れておくとよい。スイレンは繁殖力が強いので、根が鉢一杯になったら株分けをするとよく花が咲く。

緑に関する専門相談は塚山公園みどりの相談所

くさばな
☎ 3302-9387 (毎週土・日曜日)



屋上・壁面緑化助成制度について

公園緑地課みどりの事業係
内線3596

杉並区では、新たな緑化運動として「みどりのベルトづくり」を

推進しています。その中で、みちとみどり、水辺とみどり、建物とみどりなどを結び、みどりの空間づくりに取り組んでいます。

空間のみどりとして、みどりの豊かさが実感できるまちを実現していくためには、屋上や壁面の緑化を増やし、育てることが求められています。

区は、住む人に潤いを与える空間、環境にやさしい空間、そして、みどりがある空間づくりの一環として、建物の屋上・ベランダあるいは壁面の緑化に対して助成を行っています。

次回は学校緑化についてご案内します。

屋上・壁面緑化助成制度

- 助成条件は、建築物が建築基準法などの法令等に適合するもので、3㎡以上の緑化をする場合です。
- 助成対象内容は
 - ・屋上の場合、防水・排水などの基盤整備、土壌等、植栽等、鉢・プランター（1基50ℓ以上）など緑化に要する費用
 - ・壁面の場合、植栽等、ネット等の具材、補助資材など緑化に要する費用
- 新規の助成単価は、屋上は、1㎡当たり20,000円、壁面は1㎡当たり5,000円
ただし、助成対象工事費の1/2と助成単価に緑化面積を乗じて得た金額と比較し、少ない方の金額が助成金額となります。
- 助成の1建物当たりの限度額は100万円です。

< 編集後記 > 「みどりとひと」は「みどりのボランティア杉並」と協働で編集をしています。

- 善福寺公園の上池に珍しく1月6日の夕刻、コハクチョウ6羽が飛来し、19日迄冬の公園を、私を含め多くの区民の方が訪れていました。(青)
- 昔から地域の緑として愛されていたものがやむにやまれず、消えています。対応策が無いのです。(井)
- 梅・桃・桜、そして花から緑へと、季節の移り変わりと、年月の経過が感じられる頃です。(中)
- 神田川の歴史をひもとくうちに、お宿カワセミや鬼平犯科帳の大江戸の世界が重なって見え、柳橋で隅田川に合流する所をみたいと思っています。(松)
- 街のみどりが冬から春への衣替え。春を見つけにお散歩をしてみても。(森)
- 春は黄色い花からやってくるといわれています。サンシュユやレンギョウ、トサミズキ、ヒューガミズキ、ヒイラギナンテンなどが目を楽ませてくれるでしょう。(山)
- 水がめの中で咲いているスイレン、風情があっていいものです。ぜひ挑戦してみてください。(吉)

みどりの新聞 134号 平成18年3月20日発行

【編集】みどりのボランティア杉並

【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

R100

PRINTED WITH
SOY INK™

この印刷物は、大豆油墨を使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。